

令和5年度 事業評価報告書

日時：2024年1月8日（月・祝）10:00～17:00

会場：京都市中央青少年活動センター

参加者：42名（職員24名／理事4名／外部協力者14名）

1. 事業評価の位置づけ

- ① 毎年の事業評価は、年度事業方針をもとに作成した事業プランで設定した評価指標をもとに、中間（概ね11～12月末時点）での評価を行い、実践の価値づけや課題整理を行い、次年度事業や今後の事業展開につなげていくことを目的としている。
- ② 各事業所で取り組んだ事業評価は中間での評価で、本来は年度終了後にも事後評価すべきものである。現状では翌年度4～5月に事業報告を作成するが、年間の事業をふりかえり、評価することを経て事業報告を作成するものとして捉える。

* 年間事業に関する計画・評価の一連の流れ（①②より）

| 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 |
|----------------|----------------|---------------|-------------|---------------|----------------|-----------------|----------------|---------------|-------------|-------------|---------------|
| 2023年度 事業方針 | 事業プラン・ 計画作成 | 事業計画 理事会承認 | 事業プラン 修正 | 上半期事業 報告作成 | 上半期報告 理事会承認 | 事業所内 中間評価 | 事業評価会 →分析 | - | - | 事後評価 →報告 | 事業報告 理事会承認 |
| | | | | | | 2024年度 事業方針へ | 事業プラン・ 計画作成 | 事業計画 理事会承認 | 事業プラン 修正 | - | - |

2. 事業評価会の進め方

- 職員や役員の内部評価ではなく、外部評価委員を交えた評価会とする。
- 取り扱う事業について
全体で150以上の細かい事業があり、そのすべてを取り扱うのは困難であり、各事業所より1事業項目2～3事業を抽出し議論する。事業抽出の観点は事業所ごとに異なるが、最終的な目標は共通のものとする。
- 全体を7グループに分け（1グループ6名程度）、各グループで3事業所分の事業評価を実施する。具体的には、各事業所が作成した自己評価をもとに、事業を実施した結果の「事実」に基づき、「どんな成果（若者の変化、若者を取り巻く環境の変化等）がもたらされたか」を報告する。それを受けて、参加者はシートを記載。
- シートは、「団体の大切にしたいこと」8項目と照らし合わせ「どの項目をどの程度生み出せている事業か」「その理由は何か」を記載する。
- 記入した内容を出し合いながら、意見交換を行い、多様な視点で捉え直す。
- 最後に外部評価委員より評価コメントをいただく機会を持つ。

3. 事業評価会アンケートより（外部評価委員よりのアンケート結果）

（1）事業評価が十分にできたか（価値抽出が十分にできたか）

* 平均点 82.7 点（70-100 点）

（2）改善ポイントとその理由

- ・センターが主体になりがち。
- ・より広い社会、地域との関りの実現、若者のニーズに合わせて受け入れを広く
- ・数ある事業の中で、いくつかをとりあげての評価であり、また報告者の気持ち「うまくいった」「うまくいっていない」という視点での報告でもあり十分に客観的ではない。
- ・時間内にまとめることが難しかったが、その分密度の高いものになった。
- ・「社会」「地域」などの言葉の定義の認識のズレをすぐになおすことができればよりよかった。
- ・重層的な課題の解決にどのように取り組んでいくのか、各センターの活動を広く周知（当事者や関わりたいと思っている人）していくかが課題。
- ・評価を受けてスタッフの方々から具体的に「～に」「～をしています」という宣言をする時間があつたらいい。事業計画は「アイメッセージ」「マイプラン」が反映されたものである方が生き生きする。
- ・評価シートへの書き込みの時間がもう少しあるとうれしい。
- ・外部資源とのネットワーク、ワーカーの働き方へのケアがあるといい。
- ・各センター等が、とらえている全体像と其中での該当事業の位置づけが見えたら、議論やコメントがもう少ししやすかった。

（3）事業評価ヒアリングを経て、改めて考える「団体の価値」とは何か。

- ・多様な出会いへ機会づくり。
- ・「若者との出会い・入口」が最も重要だと改めて考えた。私自身、団体のことはもちろん、青少年活動センターの存在も知らなかったの、皆さんがこだわり尽力している興味深い多様な事業がもっと広く認識されてほしい。
- ・幅広い交流の実現と社会との関わり
- ・若者の主体性が発揮できる「居場所」。自分のことをありのまま受け入れられる、他者を信頼できる場所。その中で貢献できることを見つけられる（やりたいこと）、そんなヒントがたくさんある。
- ・「若者にやさしい社会づくり」ひいては、開かれた社会づくりが、最も上位の価値だと思う。機会づくりも、若者との出会いの入り口も、そこへ向けた項目であると考え。
- ・「人がそこにいること」ユースワーカーはもちろん、利用者や関わる人全てそこに存在していることに価値がある。
- ・若者が主体的に参加できるような体制の確立。
- ・若者にやさしい社会づくり
- ・「若者主体・パートナーとしての若者」ケアやエンパワメントは相互的なものである。
- ・「若者との出会い・入口」ここからすべてが始まる、その選択肢（幅広い入口）の広さが重要。
- ・ワーカー自身が心から楽しく働く。
- ・「若者主体」「社会とのつながり」「若者にやさしい社会づくり」具体の活動と関わりを通して上記を実現していくこと。

(4) 事業評価ヒアリングを通して得られた気づきがあれば記載ください。

- ・ "大切にしたいこと"をすべて満たす必要はないということ。
- ・ 教員を目指す身として、学校の"外"にある機関について本日や実習を通して学ばせていただいた。学校や教育機関との連携ができればさらに若い年代へのアプローチも可能になると考える。
- ・ 若者、ひいては京都という都市が抱える課題。
- ・ 可能性を与えてくださる場だった。
- ・ 多くの人が、京都市を良くしようと動いてるのだなと知ることができた。中学生や高校生（大学生やその他利用世代）にもこの光景を見てもらいたいし、彼ら自身の声も聞いてみたい。
- ・ 何のためにやるのか、目的をシンプルにすることの大切さ。
- ・ 掲示企画で、ここだけでしかやらないものがのびているという感覚を活かしたいと感じた。
- ・ 自分たちの抱える課題を前向きに捉える考え方（より良くしていくために）
- ・ 団体の豊かさ、取組の素晴らしさ、連携の可能性、そういったものを知り、ワクワクした。
- ・ 変化している「今の若者」も姿をどうとらえ、どう理解するか、共通する課題が見えてきたことが印象的だった。
- ・ 「協会として大切にしたいこと」の定義、意識合わせがあるとなお良い。
- ・ この場がワーカーさんどうしの率直な意見交換の場として機能していること。

(5) その他（今日の感想や体制課題、次年度の“事業”・“評価”に望むことなど）

- ・ お誘いいただき、ユースワーク・社会教育についてたくさん学ばせていただいた。
- ・ 大変学びになることが多く、貴重な時間だった。
- ・ 学校に出向いての紹介など、声と顔を届けて宣伝できると一番良いかなと思った。それを可能にするための学校との関係づくりや理解を得ることが大変だが…関係づくりと認知が広まるだけで、削減できることやその分、他にリソースが増えそう。
- ・ 評価の目線を取組を見て、話し合う機会に参加できて大変学びになった。
- ・ 私たちの活動も若者主体として進んでいこうと思う。若者主体の体制づくりを頑張ってもらいたい。
- ・ 他機関との連携をより深めてもらいたい。
- ・ オンラインでも参加できるようになるといい。
- ・ 自分の性分もあるが、理事の方が最後にコメントされたような全体感、先にインプットがあったほうが参加しやすいと思った（焦点をあてて議論しやすい）

4. まとめ

- ・ 今年度は Principle（団体として大切にしていること）ベースの評価を始めて2年目だが、まだまだ手探り感が否めない。事業評価に対して概ね良好な評価をいただきつつも、「評価しづらい」という声は、外部評価者だけではなく、内部職員や理事からもあり、さらなる改善を要する。
- ・ また Principle で「若者主体」を設定しているにも関わらず、「センターが主体になりがち」という声もいただいております、より真摯に向き合う必要がある。事業項目の評価には「若者の声の反映」を取り入れたが、事業所の中にはアンケートや直接声をきくことを取り入れている事業とそうではない事業があることがわかった。枠組みとして改善できることはしつつ、現場に価値を落としこんでいくことも必要なことであり、次年度に向けて取り組んでいく。